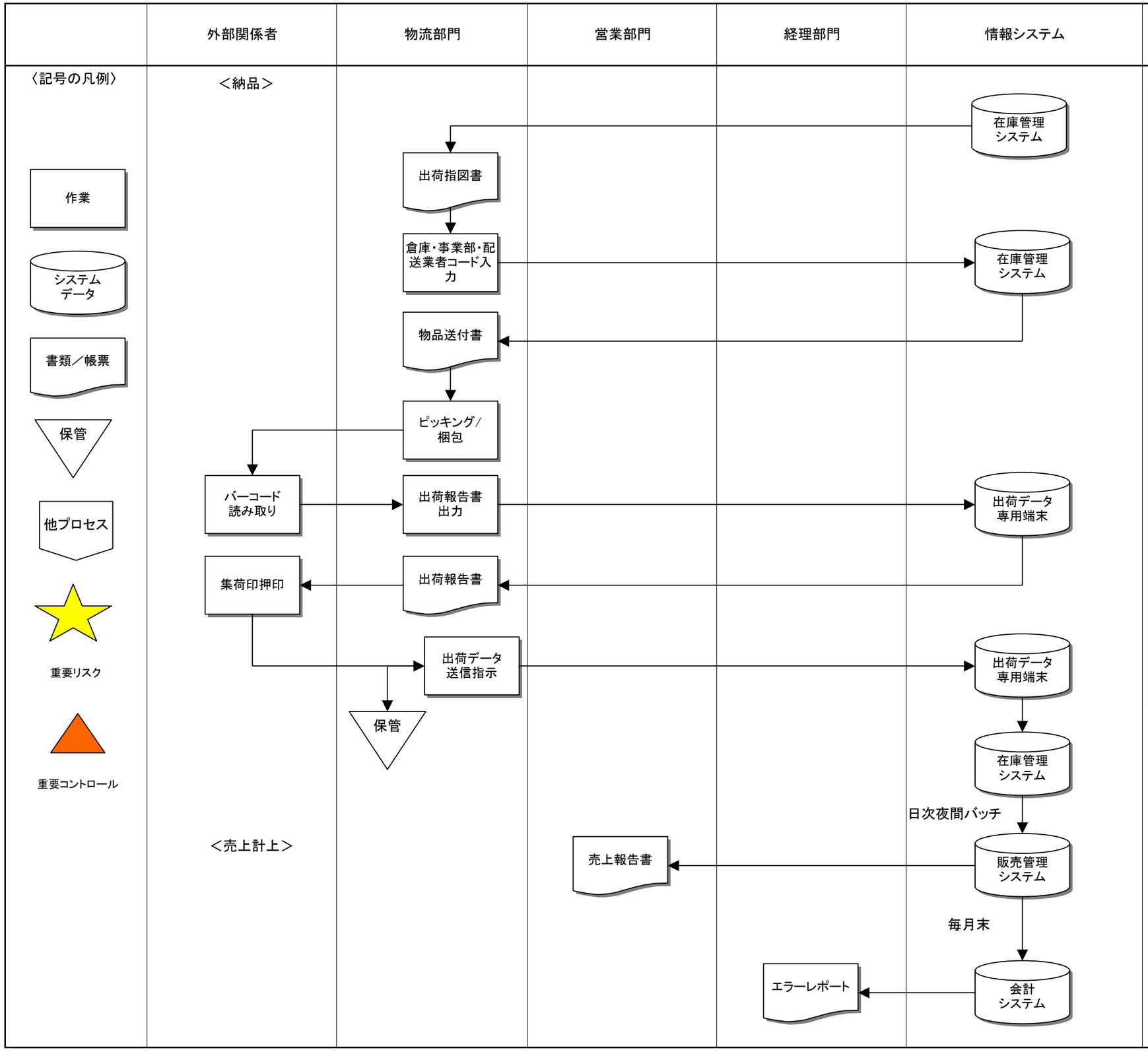
【FC−1】

FC作成例 リスクブランク

SAMPLE for Discussion Purpose Only



補足

業務記述:
納品
(ア) 在庫管理システムから出力される出荷指図書に基づき、倉庫コード・事業部コードを入力の上、配送業者コードを選択して、専用プリンターから物品送付書の出力をバッチで行う。物品送付書データはホストコンピュータに6ヶ月保管の上、テープに落とし永久保管している。
(イ) 物品送付書記載の配送方法及び指示を確認の上、着日指定等のシールに着日を記入し、物品送付書にシールをクリップで添付する。
(ウ) ピッキング担当者が物品送付書等を受け取り、ピッキングを行う。ピッキングは先入先出にて行う。ピッキング棚に商品が切れているときはバックストックよりピッキング棚に補充する。バーコードのある商品はバーコード検品、バーコードのない商品はピッキング者と別のものが読み合わせ検品を行い、内容が全て正しい場合は商品合計数量をシールに記載の上、梱包台に回す。
(エ) 梱包担当者が、検品済の商品と物品送付書を、商品の形態、数量に応じた専用箱に梱包。送り状を専用箱に貼り、所定の各配送業者置き場に置く。
(オ) 配送業者が集荷データをバーコードリーダーでスキャンし、出荷担当者が端末から出荷報告書とアンマッチリストを発行。配送業者の集荷印を受領後、データを在庫管理システムに送信する。出荷報告書は社内で3ヶ月保管の上、社外倉庫にて6年間保管する。

売上計上
(ア) 出荷処理されたデータは夜間バッチ処理により売上データに変換され、販売管理システムに伝送される。出荷が完了した受注については受注データが自動的に消しこまれる。
(イ) 営業経理は前日の売上報告書を販売管理システムから出力し、出荷報告書との照合を行う。
(ウ) 営業部門の責任者は、受注データの消しこみが適切に行われているかどうかを確認するため、定期的に注文残リストを査閲している。
(エ) 毎月末、販売管理システムから会計システムに売上に関するデータが自動仕訳計上される。自動連動にエラーが生じた場合は情報システム部門にエラーレポートが出力され、経理部門に連絡される。エラーが生じた場合、経理部門は会計システム上のデータを適切にマニュアル修正する。

重要リスク: